

2016年 冬号

第92号

僧伽編集委員会

〒921-8031  
金沢市野町2丁目32-4  
徳法寺内  
TEL (076) 241-5219  
題字 本多 千翠

過去・未来・現在、  
三世の諸仏の  
浄業の正因なり。

『仏説観無量寿経』

『仏説観無量寿経』  
『仏説無量寿経』・『仏説  
阿弥陀経』と並ぶ、浄土  
三部経の一つ。

# 僧 伽



## 過去に生かされる現在

徳法寺杉谷 浄

上の写真は、若い頃にペルーのマチュピチュを訪れた時に撮った写真です。アンデスの奥地で発見されたこの遺跡は、訪れてみたい世界遺産の一位に選ばれています。多くの人たちがこの遺跡に引き付けられる理由として、急勾配の山の頂に、このような都市を造り上げた人たちの持つていた技術力と知恵に驚かされるとい

うことが挙げられます。そして、これだけ高度な文明を持つていた人たちが、住み慣れた土地を追われて、このような僻地に都市を築かなければならなかったという歴史が、訪れた人の心をとらえるからでしょう。

過去の歴史や文化に触れたとき、今の私が当たり前のように使っているすべてのものが、数え切れないほど多くの人たちの人生を通して、ようやく私の手元に届いたものであることを知らされます。そして、それらの人たちがすべてに人生があったのです。過去は、過ぎ去ってしまった抜け殻

ではなく、現在を作り上げている礎なのです。ですから、過去を軽視することは、現在を否定することに繋がりがかねません。

昨年届いたニュースの中に、マチュピチュに勝るとも劣らない世界遺産である、シリアのパルミラ遺跡がイスラム国によって破壊されたというものがありました。十五年前には、ターリバーンによってアフガニスタンにあったバミヤンの大仏が爆破されました。日本でも、かつて多くの遺跡や寺院・城などが、託された記憶と共に破壊されてきました。その度に私たちは多くの過去の記憶を失ってしまいました。

壊すにも理由はあるのでしょうか。しかし、過去が現在を作っているように、現在が未来を作っていくのです。現在の行為が未来の人たちの過去の記憶をも消し去ってしまうことにもなるのです。過去と未来に心を馳せることで、今という一瞬が生かされてくるのです。

# 小坂保行



## 濁った視点で読む物語

ビッグイシューという雑誌を路上販売しつつ日々を過ごしています。



外国人観光客の方から「日本にもビッグイシューがあるのか!」と驚かれることがままありますし、東京あたりからの日本人観光客の方にも「金沢(のような地方都市)にもビッグイシューがあるのか!」とびっくりされるといふ事もしばしばあります。売っている本人から見ると、こういう興味深い反応が毎日のようにあつたりして、退屈しないものです。かと思えば、「朝から晩まで立ちっぱなしだと退屈するだろう」とばかりに、ご不要になった本を譲り受け

る事もよくあります。そうしてその本を読んでいる姿を目撃されて、「そんなに本が好きなのか」と別の方からも本を譲り受ける、そんなことが繰り返され、いつの間にか毎日が読書三昧という、ビッグイシューを売る為に路上に立っているのか、読書をする為に街角に立っているのか、本末転倒も甚だしい今日この頃です。

そうやって読んでみた本のなかでも特に印象深かったのは、今さらと言われそうですが太宰治作品でしょうか。現在四十八歳にして本当に今さら初めて太宰を読む。正直「人間失格」をお譲り頂いた時には、タイトルから受ける陰気なイメージに後ずさりしたものです。ところが覚悟を決めて読み進めてみますと、いつの間にかワクワクしながら読んでいます。中年となり、ホームレス生活も経験してきて幾分荒み屈折した心、四十八年間の世間の手垢にまみれた濁った目で読む「人間失格」は何と言いましようか、ブラックユーモアとしての魅力に満ちているんですね。お話そのものは、素直に読むと確かに陰鬱な物語です。すね。ですが物語の語り口であったり、台詞であったりの言い回しが絶妙な感じ加減でとぼけてる。すつとぼけてると言ってもいいくらい。もうそんな言い方したらギャグじゃないかという程。

「人間失格」以外の作品にも笑えるものが多々あります。例えば、「極度に凹むと、裏のはうがふくれて来る。つまり、あの自尊心の倒錯である。」(「新釋諸國噺」内「貧の意地」) これ、作中に登場する人物を評した一文ですが、太宰自身のメタファーなのじゃないのか、といらぬ深読みをして、やっぱり笑ってしまったんですね。「つまり、あの」の部分なんてまさにそう。「人間失格」を、太宰作品を、「過性の熱病小説」として片付けるのはもつたない。そういう見方は一面を捉えているに過ぎないのではないのでしょうか。年齢を重ねることに異なる捉え方ができる多様性を秘めた味わい。これこそが太宰の最大の魅力なのじゃないかなど。

中期以降の視線で読む太宰、おすすめです。よろしければお試しく下さい。

### プロフィール

こさか やすゆき

石川県出身。小松で出生、本籍地は輪島。金沢で育つ。四年近くのホームレス生活を経て、ホームレスが路上で売る雑誌「ビッグイシュー」日本版の販売者となる。住居を得た現在も香林坊大和前にて販売中。ソクラテス、鴨長明、エリック・サティを自らの心の友と勝手に決めつけている。

# 真宗人物伝 第三十九回

徳法寺 杉谷 浄

## 定信

今回は親鸞聖人の弟子で、関東二十四輩の第十四番である定信です。

定信を開基としている寺は、大谷派に二つあります。一つは茨城県那珂市額田にある阿弥陀寺です。この寺が伝えているところによると、親鸞聖人が那珂川(ながわ)沿いに大山草庵を開いていらつしやる所に、園城寺(三井寺)の僧である慈慶が訪ねてきて弟子入りし「定信」と法名を賜ったといひます。十年間この草庵で教えを説かれた後、親鸞聖人は定信にここを託されたといひます。定信が亡くなった後、親鸞聖人の玄孫である善明上人がこの草庵を引き継ぎ、現在二十

氏に招かれて吉田郡石神郷の願泉寺を開いていましたが、親鸞に帰依して「定信」と名を改めたといひます。

大山草庵も継承しますが、亡くなった後に、同じく親鸞聖人の弟子であった善明と学明の兄弟が、それぞれ阿弥陀寺と願泉寺を継いだといひます。

いづれにも共通するのは園城寺の僧であったということです。園城寺は派こそ違いますが、親鸞聖人が学んでいた延暦寺と同じ天台系の寺院ですから、共感するところも多かったのかもしれません。阿弥陀寺を継いだという善明上人ですが、親鸞聖人の玄孫ということになつています。玄孫とは孫の孫ですから、定信が親鸞聖人と同世代だと考えると無理があるようです。関東には親鸞聖人の長男・善鸞上人の流れを汲む願入寺がありますから「善」の字つながりで連想されたのでしょうか。

えに感動した徳川光圀が「難度の苦海には四十八の願船あり」と述べて一字を改めさせ願船寺となつたといひます。しかし、江戸時代後期、水戸藩九代藩主徳川斉昭(なりあき、江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜の実父)によって行われた仏教弾圧政策に抵抗したため、寺は焼き払われてしまいました。この政策とは

- ・寺院の釣鐘や仏像を没収して大砲の材料とする。
- ・廃寺や道端の地蔵の撤去。
- ・村ごとに神社を設置。
- ・僧侶が行っていた人別改を神官の管理へと移行。
- ・仏式の葬儀を禁止し、神式にする。
- ・抵抗する寺院は廃し、僧侶は還俗させる。

明治政府は神式の葬儀を奨励し、神式専用の墓地を作ります。これが現在の青山墓地です。また明治六年には仏教の習俗であるとして火葬が禁止されています。この法律は二年足らずで廃止されていますが、このような仏教に対する逆風を願船寺は一早く受けていたことになりました。

現在は本堂も再建され、親鸞聖人が植えられたと伝えられている大銀杏を今も見ることが出来ます。

## 杉谷浄のラジオ案内

一月五日(火)  
二月二日(火)  
三月一日(火)  
FM・NI(七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜朝七時からです。インターネットでも聞けます。

願泉寺は、後に親鸞の教

## 本の紹介(一)

## 『知性とは何か』

佐藤 優 著

祥伝社新書

佐藤優氏と言えば、対ロシア外交の最前線で活躍するも、鈴木宗雄の事件に絡んで、背任と偽計業務妨害罪で逮捕起訴された人物だ。(〇九年に執行猶予付の有罪判決を受け、一三年に執行猶予期間満了)

現在彼は、豊富な読書量を生かして執筆活動に専念している。その鋭い分析力は、さすが元国際情報局の主任分析官とうならせるものがある。

さて、彼は、この書の中で、「反知性主義」なるものが、この国をおかしくしている」と指摘している。彼の定義する反知性主義とは、「実証性と客観性を軽視もしくは無視して、自分が欲するよう世界を理解する態度」のことである。

「反知性主義」は、決して教養のない人に見られる傾向ではない。むしろ中途半端な教養があるがゆえに、この罠にはまってしまふということもあるのだ。

「ナチスの手法に学んだらどうかね」という麻生太郎の発言を覚えておられるだろうか。この物議を呼んだ副総理の発言を、佐藤氏は典型的な「反知性主義」の例として取り上げている。実際、この発言は、前後を含めて何度読み直しても、何を言いたかったのかよくわからない。ドイツのワイマール憲法は、民主主義を保証していたが、民衆が気が付かない間にナチスはそれをナチス憲法に改正して、日本国憲法も「大騒ぎしないで」こっそり改正してしまえばよい。こういうことだろうか。

静かな環境で冷静に憲法論議をすべきだと言いたかったのだろうか。これ以上善意に解釈することは難しいと思われるが、ナチス憲法が、

静かな憲法論議の末生まれた憲法の例としてふさわしいだろうか。

ここで佐藤氏は重要な事実を指摘をしている。「ナチス・ドイツは憲法を改正しておらず、ナチス政権時代のドイツでもワイマール憲法は形式的には維持されていた」と。確かに、ナチスの独裁政権を可能にしたのは、全権委任法という法律であつて、彼らは憲法を改正したわけでも、新しい憲法をつくったわけでもない。つまり麻生発言には、根本的な事実誤認があつたのである。

この発言には、国民の意志を軽視して、政府主導で憲法を改正したいという麻生氏の願望が露骨に透けて見える。その思いが強すぎて、それが氏の中途半端な教養と結びついてしまった。結果、彼は見事に「反知性主義」の罠にはまってしまったのである。

彼の発言が、ナチスという言葉に敏感な欧米諸国に

与えた衝撃は計り知れないし、それによって日本がこむつた不利益は決して無視できない。

では、この「反知性主義」は、どのようにすれば克服できるのだろうか。佐藤氏は、巷に氾濫する「話し言葉」ではなく、「書き言葉」で考えることの重要性を指摘している。いかに麻生氏が大衆文化であるマンガに精通しているとはいえ、それだけでは限界があるのだ。そしてもう一つ、他人の気持ちになつて考える訓練をすることであるという。後者はやや意外な感じがするが、彼が信奉するキリスト教の影響が反映されているように思った。

かつて外務省のラスプーチンと恐れられた佐藤優氏に対して、恐れ多いことではあるが、世の中には、自分とよく似たことを考えている人がいたものだと感心した。私が「僧伽」でこの二、三年取り上げてきた問題、ナシヨナリズム、ヘイ

トスピーチ、疑似科学、占い、行き過ぎた懐古主義……などは、すべてこの「反知性主義」をキーワードにとくくりにできるからだ。(もう一度読み返していただければ、幸いである。)

私は、「反知性主義」対策として、何事も人の考えを鵜呑みにしないこと、自分の頭で検証し考えることを提案したい。そして何よりも重要なことは、私たちは、誰でも、例外なく「反知性主義」に陥る危険性をもつことを自覚することだと思ふ。(彰)

徳法寺の  
ホームページの  
ご案内

「僧伽」のバックナンバーや報恩講、春秋彼岸の案内、お講の案内、学習会のレジュメ、交流広場などを載せています。アドレスは  
http://tokuhou-ji.com/  
です。是非覗いてみてください。

本の紹介(二)

『職業としての小説家』

村上春樹

株式会社  
スイッチ・パブリッシング  
発行

村上さんは、日本語の文  
体に革命を起こしたと言わ  
れている。まず英語で文章  
を書き、それを日本語に翻  
訳して文章を書いたという  
話は結構有名だ。誰もこん  
なことは思いつかないと思  
うが、その結果、独特の簡  
潔な文体が生まれたらしい。  
しかしデビュー当時、この  
文体は、批評家たちからか  
なり叩かれたそうだ。こん  
な翻訳調の文章は日本語で  
はないと。  
しかし、村上春樹と言え  
ば、今では日本を代表する  
作家のひとりである。誰も  
彼の小説を純文学ではない  
という人はいない。  
このような例は、ほかの

分野では、決して珍しいこ  
とではない。今までにない  
個性的なものが出現すると  
世の大人たちは眉をひそめ  
るものである。音楽を例に  
とるなら、ビートルズがそ  
の典型であろう。しかし、  
彼らの音楽は、今では、音  
楽の教科書に載っている。  
また、現在私たちが、クラッ  
シックと呼んでいる音楽も  
ほとんどは(たとえばスト  
ラヴィンスキーなどは)、当時  
としてはかなり前衛的だっ  
たようだ。  
絵画で言えば、印象派や  
野獣派といった呼称は、も  
ともとそれらに批判的な  
人々が皮肉を込めて付けた  
蔑称だった。しかし今では  
それらの名称は、近代絵画  
の輝かしい成果として歴史  
に刻み込まれている。  
つまり最初型破りなもの  
として登場した表現方法で  
も、時間というふるいにか  
けられて、良いものは必ず  
残っていくのである。そして  
それは、世の中に受け入れ  
られ、やがてスタンダード

として定着していく。これ  
こそが真のオリジナリティ  
と呼べるものであると、村  
上さんは述べている。  
いかにして個性的な作品  
を作り上げるか、日々苦心  
惨憺している、(私も含め  
た) 絵描きにとつては、よ  
くぞ言ってくれたと手を叩  
きたいところだ。  
オリジナリティというこ  
とで言うならば、これは日  
本人のもつとも苦手とする  
ところであると言われてき  
た。確かに、調和も大切に  
あるが、波風が立つことを  
恐れてばかりいたのでは、  
あらゆること、他人のま  
ねごと」で終わってしまう。  
戦後、吉田茂の秘書とし  
て、G.H.Q.と互角に渡り  
合った白洲次郎は次のよう  
に述べている。  
「新憲法のプリンシプル  
は立派なものである、(中  
略) 押し付けられようが、  
そうでなからうが、いいも  
のはいいと率直に受け入れ  
るべきではないだろうか。」  
良質なものと、粗悪なもの

のを見極める力は、結局の  
ところ、その人の天性にゆ  
だねられているのかもしれ  
ない。  
本書の話題は、文学賞の  
持つ意味、教育問題、はて  
は原発問題にいたるまで多  
岐にわたる。僧伽の読者の  
みなさんには、原発問題の  
ところをぜひ読んでいただ  
きたいと思う。  
いまさらながらではある  
が、村上さんのバランスの

とれた分析力と、文章力の  
確かさには驚かされる。  
(彰)



**平成二十八年  
年忌法要の案内**

一周忌	平成二十七年死亡
三回忌	平成二十六年死亡
七回忌	平成二十二年死亡
十三回忌	平成十六年死亡
十七回忌	平成十二年死亡
二十五回忌	平成四年死亡
三十三回忌	昭和五十九年死亡
五十回忌	昭和四十二年死亡

# 仏教豆知識

## だいなし (台無し)

「せつかくのチャンスをと台無しにする」とか「雨で旅行が台無しになる」という「台無し」という言葉ですが、もともとは古くなり

傷んでいることを意味していたようです。今では物事がだめになっていいることを広く指す例えとして使われています。

この「台無し」の「台」ですが、実は仏像を安置するための台座のことなのです。古くなつて台座が無くなつてしまった仏像は、値が無くなつてしまふということに由来しています。ではなぜ台座が無いと値もなくなるのでしょうか。

仏像の位や種類によって、どのような台座に安置されるのかが決まっているのです。つまり、台座は仏像の一部であり、台座によって仏像を見分けることもある

のです。代表的な台座には次のものがあります。

### ・蓮華座 (れんげざ)

悟りを表す蓮華の形をした台座で、如来や菩薩に最も多く用いられています。その他には愛染明王などにも見られます。

### ・須弥座 (しゆみざ)

世界の中心にあるという須弥山の形をした台座で、如来に用いられます。例外としては醍醐寺の弥勒菩薩があります。

### ・岩座

岩の形をした台座で、十ニ神将などの天部や明王像に用いられています。四天王は、岩座の上で邪鬼を踏んでいます。変形として、角材を井桁状に組んだ瑟瑟座 (しつしつぎ) は不動明王に、洲浜座 (すはまざ) は阿修羅に用いられます。

### ・荷葉座 (かしようざ)

蓮葉の形をした台座で、

鬼子母神や吉祥天など位の高い天部に用いられます。

### ・裳懸座 (もかけざ)

衣(裳)の裾が垂れ下がっている台座で、法隆寺金堂の釈迦三尊や中尊寺の一字金輪坐に見られます。変形に丸椅子のような形の楊座 (とうざ) があります。中宮寺や広隆寺の弥勒菩薩に見られます。

### ・禽獣座 (きんじゆうざ)

普賢菩薩の象、文殊菩薩の獅子、孔雀明王の孔雀、大威徳明王像の牛などがあります。

### ・雲座 (うんざ)

雲の形の台座で、飛天や阿弥陀如来に見られます。

### ・宣字座 (せんじざ)

箱型の台座で形が「宣」の字に似ています。如来に用いられます。

類似の慣用句に「台座後光を仕舞う」というものが

ありますが、これは仏像から台座と後光を取ると威厳が無くなることから、面目を失うという意味で使います。また、ここから命を失うという意味で使われることもあります。仏像を見に行かれた時、是非その台座にも気を付けてみてください。(浄)

## 各寺のご案内

### ◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

☎二四一―二六四九

### ◎春彼岸法要

三月二十日(日・祝)

午後二時より

### ◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二―四

☎二四一―五二一九

### ◎お講 (石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師 三月 杉谷 浄

講師 四月 藤塚 曼  
※十二月・一月・二月は天候が悪いのでお休みします。

### ◎春彼岸 エリック・ウオン

ヒマラヤ写真展

三月十七日(木)から

二十三日(水)まで

### ◎春彼岸中日及び

永代経法要

三月二十日(日・祝)

午後二時より

講師 藤原千佳子氏

### 『心の相談室』

毎月第四土曜日

午後三時～五時

東別院横

「いちよう館」二階

相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きします。

### 編集委員

西山 彰 (常徳寺)

杉谷 浄 (徳法寺)